

徳島県流域生態系ネットワーク形成の取組

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

2017年10月19日に吉野川流域を対象として設立した「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」について、コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していること、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する取組について、情報共有・連携を図ることを目的に、2021年1月15日に、徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行しました。



「第1回徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の開催の様子(上写真)

「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」は、これまで対象としていた吉野川流域(赤着色部)に加え、那賀川流域(黄着色部)と県管理河川等の流域(緑着色部)を加えた徳島県全域を対象としています(右図)

「国土数値情報(行政区域データ、河川データ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)を加工して作成



協議会構成員(2021年1月15日時点)

学識者	徳島大学大学院 武藤教授 ◆会長
	徳島大学大学院 鎌田教授
	徳島大学大学院 河口准教授
	NPO法人とくしまコウノトリ基金 柴折理事・事務局長
市町長	徳島市長
	鳴門市長
	小松島市長
	阿南市長 藍住町長
行政	徳島県危機管理環境部 部長
	徳島県農林水産部 部長
	徳島県商工労働観光部 部長
	徳島県県土整備部 部長
	国土交通省 徳島河川国道事務所 事務所長
	国土交通省 那賀川河川事務所 事務所長
	株式会社阿波銀行
	一般社団法人イーストとくしま観光推進機構
	コウノトリ定着推進連絡協議会 会長
	四国電力送配電株式会社
四国放送株式会社	
四国旅客鉄道株式会社	
徳島希少鳥類研究会	
団体等 (50音順)	株式会社徳島大正銀行
	一般財団法人徳島県観光協会
	徳島県農業協同組合中央会
	公益財団法人とくしま産業振興機構
	一般社団法人徳島新聞社
	一般財団法人日垂ふるさと振興財団
	日本ビオトープ管理士会徳島支部
	日本野鳥の会徳島県支部
	吉野川交流推進会議
	環境省 中国四国地方環境事務所
農林水産省 中国四国農政局	

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目標

徳島県流域を対象として全体構想が作成され、新たに長期、中期、短期の目標が設定されました。

長期目標 ～2050年

- ◇徳島県でコウノトリ・ツル類がくらしていることが日常の光景となり、これらが舞い降りる川や田んぼは、カエル・魚・虫などの生物多様性が豊かで、良好な水辺の景観が広がる場所となっている。
- ◇川と里での生態系ネットワークの取組が、山や海へ広がり、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を最大限に守り活かした産業が営まれている。
- ◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりを実感できる、徳島県独自の魅力的で持続性のある地域づくりが展開されている。

生息環境づくり

【コウノトリ】

徳島県内の河川流域でコウノトリが繁殖・定着し、年間を通じた身近な存在となっている。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成されている。

【ツル類】

冬の訪れと共にナベヅル・マナヅルの群れが飛来し、徳島県内の河川の流域で越冬する姿が見られる。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成され、国内における安定した新越冬地になっている。

地域・人づくり

- コウノトリ・ツル類を指標とした徳島県内の生態系ネットワークの形成が、国内のみならず国際的にも注目されるようになり、ブランド農産物や訪日観光客を通じて地域経済や地域活力を担う有力な資源となっている。
- コウノトリ・ツル類の存在を地域の新たな誇りとし、その生息環境の保全・再生・管理が地域の多様な主体による連携と協働で持続的に進められ、人々はその結果として様々な自然の恵み（生態系サービス）を享受できるようになっている。

中期目標 ～2030年

生息環境づくり

【コウノトリ】

吉野川流域で、3～5ペアのコウノトリが繁殖し、安定した生息地となっている。那賀川・勝浦川流域周辺でも、コウノトリが繁殖している。また、徳島県内の他地域においても、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。

【ツル類】

徳島県内へのツル類の渡来、越冬が続いている。吉野川、那賀川、海部川等の河川区域及び周辺地域で、ねぐら環境、採食環境の保全整備、人の利用の調整が継続して行われている。また、徳島県内の他地域においても、ねぐら環境、採食環境の保全整備が進められている。

地域・人づくり

- 徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品のブランド化が行われ、国内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。
- 徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。
- 多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流がさらに拡大している。コウノトリ・ツル類との共生に取り組む徳島県や各地域の地域イメージが向上し、地域の関係人口が増えている。

短期目標 ～2025年

生息環境づくり

【コウノトリ】

吉野川流域で、採食環境と営巣環境の保全整備が継続して行われ、複数ペアのコウノトリが繁殖している。また、那賀川・勝浦川流域周辺でも、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。

【ツル類】

ツル類の安定したねぐら環境の確保に向けて、吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での砂州や干潟の保全・再生及び人の利用の調整、周辺の農地での冬期湛水やため池の冬期の水位調整等が進められている。河川の周辺地域で、採食環境の保全整備が進められている。

地域・人づくり

- 先行取組地域の農業関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品を認証する制度が拡充されている。
- 先行取組地域の観光関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光に向けた受け入れ体制や施設整備が促進されている。
- コウノトリ・ツル類が各地域で受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流が行われている。また、2025年大阪・関西万博等の機会を通して、コウノトリ・ツル類と共生する取組がアピールされ、徳島県や先行取組地域の認知度が上がっている。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の推進体制

地域での事業の実施にあたって、実施地域の関係主体（自治体、地域住民、自治会、団体、企業等）で構成される「地域ワーキング」を本協議会の下に設置し、具体的な取組を検討します。また、必要に応じて「専門部会」を設置し、地域ワーキングの具体的な取組の検討、実施に際して、専門的知見からの支援を行います。

吉野川流域では、鳴門地区地域ワーキングを先行して設置し、2018年11月に旧吉野川での自然再生事業において創出する環境や管理・活用等について検討を行う「鳴門地区生息環境づくりワーキング」を設置し、2019年9月に魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進について検討を行う「鳴門地区地域・人づくりワーキング」を設置しています。

『徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会』

◇開催回数：年1回程度 ◇構成：学識者／市町長／行政／関係団体等 計30名程度

◇主な役割：全体構想の策定、取組に関する情報の共有

【事務局：徳島河川国道事務所、那賀川河川事務所、徳島県】

『専門部会』

- ◇開催頻度：必要に応じて開催
- ◇構成：分野別専門家 5名程度
- ◇主な役割：地域ワーキングの具体的な取組の検討、実施に際して、専門的知見から助言

生息環境づくり部会

徳島県におけるコウノトリ・ツル類の定着・繁殖に関すること

地域・人づくり部会

徳島県におけるコウノトリ・ツル類が舞う魅力的な地域づくりや人材養成に関すること

支援

『地域ワーキング』

事業の実施にあたって、地域の関係主体が参加して具体的な取組を検討、推進

鳴門地区地域ワーキング

「鳴門地区生息環境づくりワーキング」
「鳴門地区地域・人づくりワーキング」

【事務局：徳島河川国道事務所】

〇〇地区地域ワーキング

状況に応じ、適宜設置

【事務局：〇〇〇〇】

〇〇地区地域ワーキング

状況に応じ、適宜設置

【事務局：〇〇〇〇】

旧吉野川の自然再生事業の概要

「鳴門地区生息環境づくりワーキング」において、旧吉野川での自然再生事業を検討しています。旧吉野川と板東谷川との合流部分の河岸の一部を掘削し、コウノトリの採食場所となる湿地やハス田のほか、その場所の環境を代表する生物（目標種）の生息場所（池・ヨシ原・水路等）を再生します。また、掘削により流下能力も高まります。



旧吉野川での河道掘削と合わせた湿地・ハス田の創出（イメージ）

目標種



タナゴ類



イシガイ科二枚貝類



ミナミメダカ



アジアイトトンボ



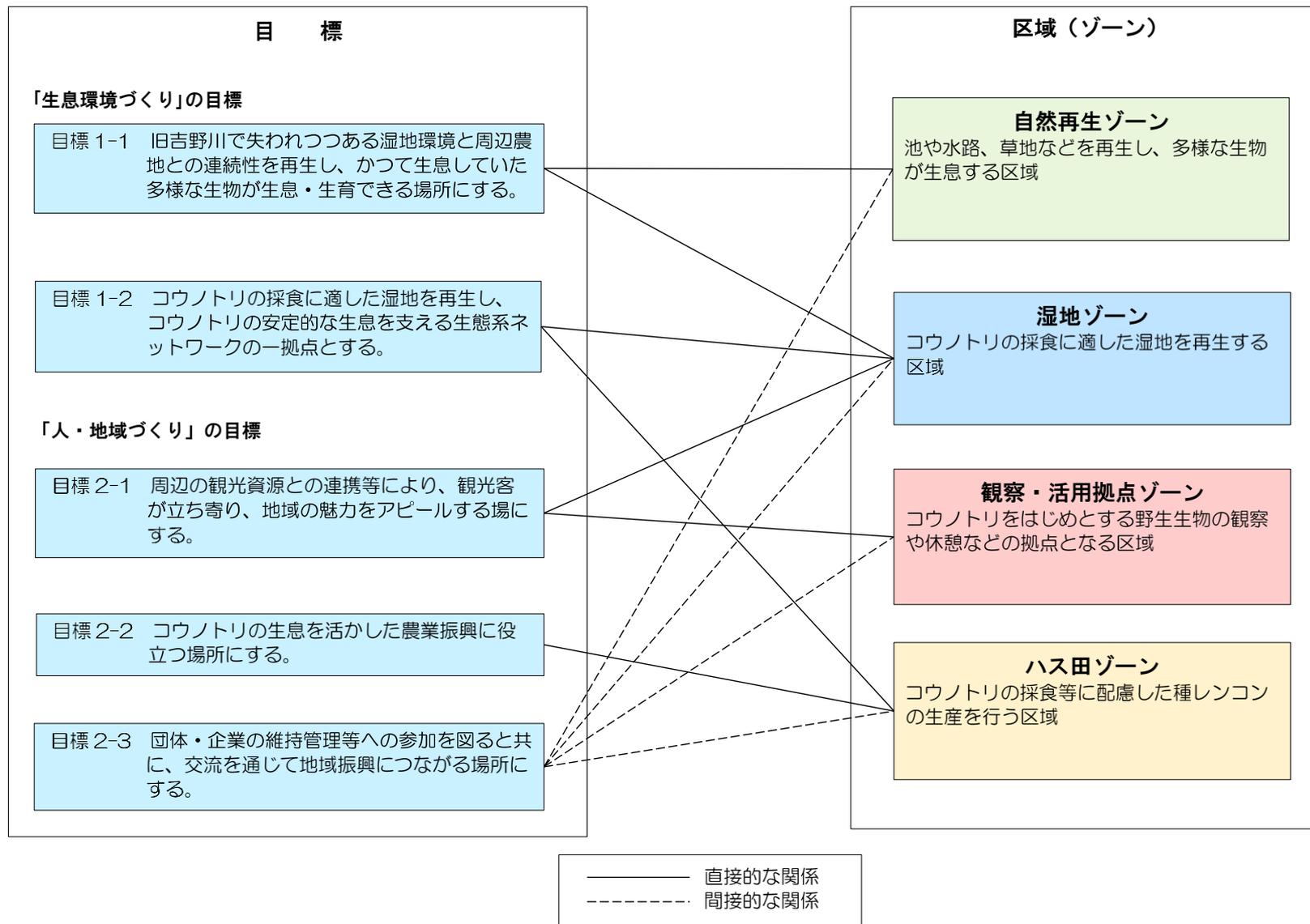
シマゲンゴロウ



ヒクイナ

旧吉野川の自然再生事業の目標、ゾーン設定

旧吉野川の自然再生事業の目標として、「生息環境づくり」と「地域・人づくり」に関する目標を設定するとともに、その目標を達成するように4つの区域（ゾーン）を設定しています。



旧吉野川の自然再生事業地の各ゾーンの設計

これまでのワーキングでの検討や、有識者（景観分野・コウノトリ研究）へのヒアリングも踏まえ、各ゾーンは、以下のようなことに配慮して設計が行われています。

■自然再生ゾーン(約10,000m²)

- ・ 設定した目標種が息息する「池」「ヨシ原」「水路」などの自然環境を創出する。
- ・ 「池」は管理労力の低減を考慮し、ヨシなどの抽水植物が侵入しない水深1m以上の深さを広い範囲で確保する。

■観察・活用拠点ゾーン(約600m²)

- ・ 全体が展望できる場所に設置する。
- ・ 活用されやすくなるよう、ゾーン前面の法面を緩傾斜化する。



■湿地ゾーン(約6,500m²)

- ・ トラクター等の利用により管理労力を軽減することを目的し、トラクターの利用がしやすい「ハス田ゾーン」と隣接する場所に配置する。
- ・ コウノトリの採食に適した水深30cm以下の湿地が年間を通じて確保されるようにする。
- ・ 地域でコウノトリの採食場が減少する、6～9月に採食場となる場所を広く確保する。
- ・ 旧吉野川との境界部は開口部を設け、「半開放系湿地」とする。

■ハス田ゾーン(約7,500m²)

- ・ ハス田を管理していただく「NPO法人れんこん研究会」の意向を踏まえ、ハス田の配置・面積を設定
- ・ 種レンコンの収穫時に水が抜かれる際の生き物の退避場となる深みを設ける。

徳島県鳴門市におけるコウノトリを活かした観光を考える現地見学会

コウノトリと地域の歴史・文化資源とあわせた観光の進め方や、関西圏から集客するための発信方法等について、旅行雑誌編集者の方々からご意見をいただくことを目的に、旅行雑誌編集者の方々を現地に招待して意見を伺う、現地見学会を開催しました。

【日時】2020年11月5日(木)、9:40~15:00

【場所】徳島県鳴門市(コウノトリ営巣地周辺、大西陶器、本家松浦酒造、JA大津松茂等)

【主催】吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

【参加者】(株)昭文社・(株)JTBパブリッシング・ぴあ(株)の編集者、鳴門地区地域・人づくりワーキングのメンバー



営巣地周辺のサイクリング



コウノトリ営巣地周辺
(コウノトリの食物となる生きもの観察)



コウノトリ営巣地周辺
(コウノトリの観察)



大西陶器での見学



本家松浦酒造での見学



JA大津松茂での意見交換会

コウノトリの普及啓発パネルの作成

徳島県に飛来しているコウノトリへの興味・関心を高め、守り活かす取組への理解を促すために、コウノトリの普及啓発パネルを作成しました。

対象・ターゲット

- ◇鳴門市民、徳島県民
 - ◇国内から徳島県(鳴門市)への来訪者
 - ◇国外(特にドイツ)から徳島県(鳴門市)への来訪者
- ⇒一般の方にも理解しやすいように、用語や表現を小学校高学年がわかる内容とする

ねらい

- ◇鳴門市民、徳島県民:コウノトリへの興味・関心を高め、守り活かす取組への理解を促す
- ◇来訪者:鳴門地区のコウノトリや取組への認知を高め、地域イメージの向上につなげたい

パネルのサイズ

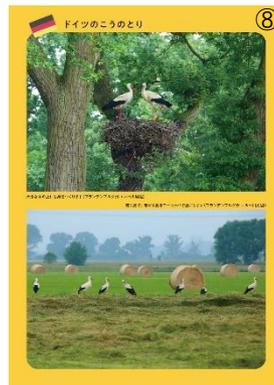
A1(594×841ミリ)

対応言語

日本語・ドイツ語

構成

- ①このとり 徳島県へ(イラスト)
- ②実はこのとりは・・・(イラスト)
- ③どうして鳴門で子育てしているの?(イラスト)
- ④日本のこのとり(写真)
- ⑤日本のこのとり(写真)
- ⑥ドイツにも仲間がいます(イラスト)
- ⑦ドイツのこのとり(写真)
- ⑧ドイツのこのとり(写真)
- ⑨徳島県の空を飛ばたく(イラスト)



コウノトリの普及啓発パネルの展示

コウノトリの普及啓発パネルの貸し出しを行い、イベントや施設で展示しています。今後、普及啓発パネルのさらなる活用を進めたいと考えています。

実施状況

◇令和2年度「吉野川魅力発見パネル展」

展示場所: 鴨島公民館(徳島県吉野川市鴨島町鴨島1)

展示期間: 2020年9月23日(水)~10月30日(金)

主催: 吉野川交流推進会議、徳島県

◇とくしまマルシェ「とくしまコウノトリ基金」のブース

展示場所: しんまちボードウォーク(徳島市東船場町1~2丁目)

展示期間: 2020年11月29日(日)

協力: とくしまコウノトリ基金
コウノトリのはく製もあわせて展示

◇徳島県庁 1階ホール

展示期間: 2020年12月1日(火)~18日(金)

協力: とくしまコウノトリ基金
コウノトリのはく製もあわせて展示

◇徳島阿波おどり空港到着ロビー

展示期間: 2021年2月1日(月)~15日(月)

協力: とくしまコウノトリ基金

◇オーガニック・エコフェスタ in 徳島

展示場所: みはらしの丘あいさい広場(小松島市立江町炭屋ヶ谷47-3)

展示期間: 2021年2月1日(月)~28日(日)

協力: とくしまコウノトリ基金

◇ドイツのハンドボール代表チーム 事前キャンプ

展示場所: 鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホール

展示期間: 2021年7月13日~21日

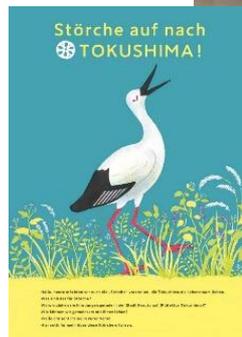
※ドイツ語版



県庁での展示



鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールでの展示



イベント『ナベヅルのデコイづくり』

2021年11月13日（土）13:30～16:00に、とくしまコウノトリ基金と島田島活性化プロジェクトのメンバー、ボーイスカウト鳴門第9団の子どもと保護者が、ナベヅルの平面デコイ（模型）をつくりました。このデコイは、ナベヅルがかたどられた板に絵の具で模様を塗る簡易なものです。デコイを鳴門市瀬戸町島田島のビオトープに設置し、自動撮影カメラでモニタリングを行っています。

主催：NPO 法人とくしまコウノトリ基金、島田島活性化プロジェクト、徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会



デコイの色塗り



イベント参加者



ビオトープへのデコイの設置



自動撮影カメラによるモニタリング



アオサギの利用



カモ類の利用